

平成8年
1996

1.1

新春特集号
第1084号

宇治市政だより

編集・発行：宇治市企画管理部広報課 〒611 京都府宇治市宇治琵琶33番地 ☎(0774)22-3141



小倉双葉園保育所の園児たち

歴史を糧に21世紀へ駆ける



市議会議員 野口 一 美

新年明けましておめでとうございます。平成八年の輝かしい初春を迎え、市議会を代表し謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年の四月に市民の皆様によって選ばれました三十二名で構成された新たな議会は、市民の代表機関としての強い自覚と決意で臨み、市民生活の向上と福祉増進のために全力を尽くしてまいりました。

二十一世紀まであと五年。今、内外共に大きな変革期を迎えておりますが、本市は市民の皆様のご理解とご協力により、着実に発展しております。今春には、いよいよ新宇治橋が開通。秋には待望久しい植物公園の開園や下居大久保線の開通、また、源氏物語ミュージアムの建設やJR宇治駅改築など今後のまちづくりの基軸となる事業も予定されております。一方、地方分権の推進は一層進み、今秋にも指針が策定される見込みであり、地方行政はその真価が問われる時代を迎えます。

私共は今後も、市民の皆様のご意見を聞き、本市のまちづくりに更に努力を重ねてまいります。市民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



市長 池本 正 夫

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこと心からお慶び申し上げます。

いよいよこの春には新しい宇治橋が竣工いたします。本市といたしましては、この歴史的な幕開けに呼応して京阪宇治駅前広場の整備を進めてまいりますと共に、JR宇治駅につきましても、お茶と観光のまち宇治の玄関口にふさわしい駅舎として早期改築に向けて努力してまいります。

また、今年の秋には植物公園が開園の運びとなり、源氏物語ミュージアムや野外活動センターなど、二十一世紀を展望した施設づくりも着実に進んでおります。私は、ふるさと宇治の限りない発展のために今後共、都市生活基盤の整備はもとより、本格的な高齢化社会に備えた福祉の充実にも一層の創意と工夫を凝らし、市民の皆様のご夢と希望がふくらむ「住んでよかった」と実感できるまちづくりに、渾身の力を傾注してまいらねばならないと決意を新たにしております。

市民の皆様のご協力をお願いし、併せて、ご健勝とご多幸を祈念申し上げます。まして、新年のご挨拶といたします。

● ヨンから
・宇治蓮華)

● 観光図絵などを
の中に宇治橋に関
する人は旅先など
で書を買求めて
は、次の世代に
立派なものに
なりました。

▲ 昭和初期
(三の間から
上流を望む)

▼ 明治末期





宇治橋

名所の橋。暮らしの橋

近鉄京都線の京都行の電車に
乗ると小倉駅を過ぎたあたりから、
左手に見渡すかきりの田畑が車
窓いっぱいには広がってきます。
ここは今では巨椋池干拓田と呼ば
れるように、五十年前までは
大きな池だったのです。古来
にあっては池はさらに大きく、
ほぼ現在の宇治川と木津川の間に
広がっていました。当時
京都盆地を陸路で南北に移動し
ようとする人々は、池の東西に
残されたわずかな平地を進み、
川幅が狭まった所を渡るしか方
法がありませんでした。その西
側が現在の八幡・山崎付近、そ
して東側が宇治橋付近なのです。
この地に初めて橋が架けられ
た時期についてはいろいろな説
がありますが、はっきりとした
年号が伝えられているのは大化
元年(六百四十六年)です。そ
れ以来、千三百年、橋を造っ
て様々な出来事がありました。
平等院に遊んだ平安の貴族たち
も渡ったことでしょう。地震で
橋が崩壊し、渡っていた人が橋
ごとくに川に投げ出されたこと
もあります。京都を巡る攻防に巻
き込まれ、橋をはさんで軍勢が衝
突することもありました。また、
洪水で流されたことなどは数え
きれません。
しかし、いくら流されても橋
はこの地に架け続けられました。
それは、とりもなおさずこの地
の重要性を示しています。と同



イメージ図)

事が間もなく終り、その新たな
姿を私たちの前に現します。先
ごろ本紙で宇治橋の古い写真の
提供を呼び掛けましたところ、
多数のご連絡をいただきました。
皆様はこの場を借りてお礼申し
上げます。今回の特集ではその
中から何点か、想い出話を添え
てご紹介いたします。
新しい橋は二十一世紀も名所
として、暮らしの中の橋として
存在し続けることでしょう。そ
してまたやってくる歴史の節目
に、私たちの子孫はどんな話を
語ってくれるのでしょうか。

＊ ＊ ＊

宇治橋の歴史について詳しく
知りたい方は、次の文献をご覧
ください。
『宇治市史』全六巻・宇治市
史年表、『宇治橋』宇治文庫五、
『宇治橋』その歴史と美と。』
いずれも歴史資料館(☎20・1
311) ほかで販売しています。

▲ 昭和30年ごろ撮影

姉の夫が撮りためてい
たものの1枚です。40年
前の宇治橋通りは何だか
今よりも狭く感じます。
宇治橋の架け替えもあり
ますが、「源氏物語の
まちづくり」で界隈の道
が近年整備され、川東地
域も良くなってきました。
近くにできるという「源
氏物語ミュージアム」も
楽しみです。

今よりも狭く感じる宇治橋通り

高島秀行さん (59歳・宇治又振)

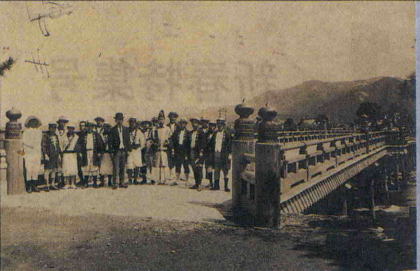


この写真を手に市議会で質問

梅原文雄さん (74歳・津津川南組)

伯父で旧宇治町長の河村
門太郎が明治四十五年に撮っ
たもので、今のもう一代前の
木の橋です。
今の橋ができるまでは、大
水でたびたび壊
れたり流された
りしてきたと聞
いています。私
が市議会議員だ
ったころ、一般
質問でこの写真
を手に宇治川改
修の必要性を説
いたこともあり
ました。

▲ 明治45年5月撮影




▲ 昭和23年6月5日撮影

これは、昭和23年の県祭りの日に
撮ってもらいました。結婚の際、実
家のアルバムからそとと抜いてきた
もので、父が幼い私を抱いている唯
一の写真です。
黄檗で育ちましたが、橋を渡って
宇治のまちへ映画を見に来たころを
思うと、懐かしい気持ちでいっぱい
です。

父が私を抱いている唯一の写真

西森弘子さん (48歳・横島町外)





▲ 昭和28年9月15日撮影

宇治橋のたもとに暮らして

通円亮太郎さん (50歳・宇治東内)

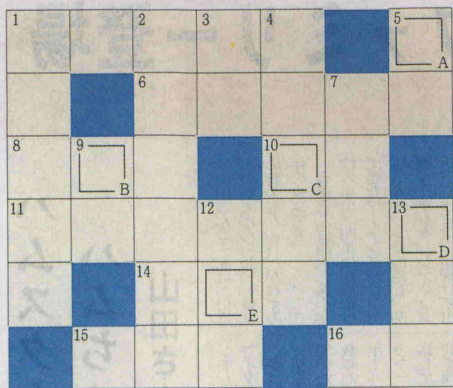
子供の時分、夏になると夕
涼みに来た人が上流に向かっ
て欄干の下から足をぶらぶら
させてたものです。危ないの
で私は止められていました。
うらやましかったですね。車
を見掛けることもほとんどな
い時代でしたので、そんなこ
ともできたのでしょう。また、
橋の上で映画「鞍馬天狗」の
新しい橋は少し場所が離れ
てしまいましたが、今までどお
り「三の間」もできるそうで、
喜んでいきます。宇治橋は単に
渡るだけの橋ではなく、歴史
があり、文学にも登場する文
化的建造物です。そのために
も、新しい橋も今まで同様、
訪れる人の心をなごませ風情
のあるものであって欲しいと
思います。

▲ 昭和27年3月15日撮影




プレゼントがあたる 恒例の

お正月
クロスワードパズル



よこのカギ

- 冬になれば宇治川を舞う白い○○○○○の群れ。
- 、逆風ともいう。
- 「○○○の光、窓の雪」卒業式でよく歌われていました。
- 大リーグで大活躍の野茂投手。右足を○○○にして背中を見せるほど振りかぶるトルネード投法で三振の山。
- は、骨髄移植の提供者が必要な日数を休める制度です。
- 「U」Iあさぎり○○○ご存じですか。ご存じでない方は女性政策室へ連絡を。
- イスラム教の寺院のこと。
- 世界遺産に登録されている「宇治○○神社」のライトアップは正月3日まで。

たてのカギ

- 歴史が息づく散歩道。○○○○○の整備も進んでいます。
- 昨年はカナダのこのまちと友好都市盟約を締結して5周

- 年。それを記念し市道下居大久保線の変称を「○○○○○通り」に。
- コーヒーの種類。
- 暗いところから明るいところに出るとき、まぶしさを感じていても時間と共に正常に見えるようになる現象を「○○○○○のう」と言います。
- 言い争いは損。「口舌」と書いて「○○つ」と読みます。
- エトの「辰（たつ）」は○○○の動物です。
- 「○○からばちもち」と言うけれど…。
- 「サラリーマンは○○○な稼業ときたまんだ」昔、こんな歌がありましたね。
- もち、あなたのご家庭には飾ってありますか。

.....

A～Eの文字を並び変えるとある言葉になります。これを買っていた人は今日の新聞をみて一喜一憂。いろんな夢を見ていたのにな。さて、何でしょう。

はがきに答えと希望の賞品名・住所・氏名・年齢・市政だよりに対するご意見（掲載希望など）を書いて、1月10日（※当日消印有効）までに、市広報課「お正月クロスワードパズル」係（〒611宇治琵琶33）へ。A賞…抽選で10人に、歴史資料館が発刊した宇治文庫「宇治橋」かB賞…抽選で20人に、観光協会が作成した「宇治の色紙はがき（5枚セット）」をお送りします。



テレビ広報
新春特別番組

宇治・街・人

—市長 新年の抱負を語る—

1/1 (祝)
午後0時半から15分間

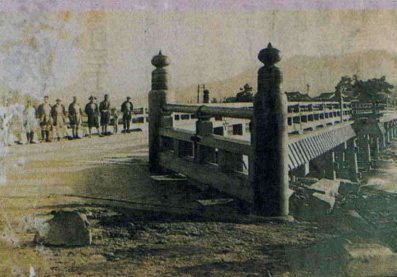
京都テレビ
UHF 34ch

今の宇治橋が出来上がったときの写真です。

私は昭和十年から翌年にかけて、今の宇治橋を架ける工事に大工の一人として携わりました。今のように大掛かりな機械はなく、ほとんど人力に頼っていたので、それは大変な仕事でした。大水になったとき川の水位が流されにくいよう、縄で



60年前、宇治橋建造に携わった
新宅為次郎さん（89歳・宇治武蔵）



りする新しい橋をこの足で歩きたいと、今は思っています。

昭和11年
9月撮影

昭和40年、ちょうどこちらへ移り住んだところで、あちこち撮り歩いていたものの1枚です。

仕事の都合で静岡に単身赴任していたことがありますが、こちらへ戻ってきてこの橋を見ると、ああ帰ってきたなあ、と落ち着いた気分になったものです。

昭和40年初夏撮影 ▶



ここから見る宇治橋が好きだ

山岸 健さん（62歳・木幡御蔵山）

私の父母、祖父母、曾祖父母が今の宇治橋の渡り初めをしました。母は私を身ごもって生まれたので、四代での渡り初めです。久しぶりにこの写真をみると元気なころの両親や祖父母のことを思い出します。以前はこの写真が玄関近くに掛けていて、昔の話をよく聞かされたのですが、子供の時は広い橋だと感じました。新宇治橋の完成は新しい歴史の一ページですが、渡り初めをした橋が取り壊されるのはやっぱり寂しいですね。



おなかの中で宇治橋を渡り初め
松井正和さん（58歳・神明宮北）

昭和11年9月
22日撮影

絵葉書のコレクション

安藤拓生さん（54歳）

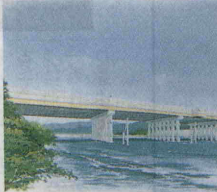
古書市などで古い絵葉書が買集めるのが好きで、そのする物が何点あります。写真で写真を撮る代わりに、絵葉書に描かれた風景を思い浮かべながら、新しい絵葉書に引き継いでいくのにはふさわしいようで、期待しています。

宇治



時に豊かな歴史と風土に裏付けられて、橋そのものが名所のひとつとして、この地に不可欠と人々に意識されてきたことの証でもあるのです。

平等院と並ぶ宇治の象徴であり、人々の暮らしに密接にかかわってきたこの橋の架け替え工



▲ 完成の待たれる新宇治橋



▲前列左から敦奈ちゃん、光伸くん、2列目から
寿美子さん、栄さん、後列左から堅一さん、新一さん

吉國さん家族は近所に住むおばあちゃん、吉野寿美子さん(59)とお母さんの栄さん(35)と光伸くん(11)がねずみ年。三人が三稼家の中・外間わすちョロチョロと元氣いっぱい走り回っている、行動派のファミリーです。

最近、開基を始めたといっておじいさんの吉野堅一さん(65)の師匠は娘婿の新一さん(36)。筋が良くないのゴルフのようにはなかなかまくなりません」と嘆きの声

いつも元気な仲良し家族

吉國さんご一家
(明星町三丁目)

新一んは開朗な態度ですが、ゴルフ・サーフィンとスポーツなど何でもこなすというスラッパが趣味で、新しい本の書庫をアトリエにしてみました。そう、趣味でいつも季節の花嫁から選んでいるので、家中花に似ています。光伸くんはお父さんについて、スラッパが大得意。今はサッカークラブに夢中。妹の敦奈ちゃん(8)は、国と生き物が大好き。家族で出掛けるときも必ずスケッチブックを持っていきます。天気が良ければ大抵、お弁当を持って六人で出掛けたりする。いつも、とっても仲良しな一家。今年も良い年でありました。

何かよいことがあります

村上さんご一家 (槇島町一ノ坪)

▶左から益子さん、直さん、知春さん
秀幸さん、友英さん

村上さんのご家族は、お母さんの益子さん（41）と長女の中原知春さん（23）が今年暮、知春さんには、今早々女赤ちゃんが生まれる予定で、家族の中にじえとが三人に……。

でお節料理を持って私の母のとうで過して、今日は初めに行きまして、今日は娘の出産もあるのてうかなあ」と益子さん、とても天真らん漫な益子さんの趣味は、お寺参り。一人で車を運

る、落着くおのれだす。は、食って暮らす知恵さんです。出奔で奪うの今のは、唯の楽しみで、のんびり毎日過ごしているとのこと。これに、反対に夫の希望さん(26)は、生まれてからずっと、父兄と親しい関係で育つ供の父親としての責務を全ひひしと感じてゐるのだそうです。

友英さん(16)は、中学年女生。まんがが書けるのが趣味で、家で一番の直書き(56)は、目下仕事一筋。益々忙しくなれば、おそらく何もかも投げっぱなしに掛かることを一番気に掛かっている。

今年は、孫の誕生も含め、何か良いことがありそうなる予感のこと。明るく、友だち同士のよくなき雰囲気村上さん、一家今年も良質な暮らしまわらうに！

ねずみ年



ファミリー登場

ハムスターの

ハムちゃんもいるよ

山田さんご一家
(大久保町平盛)

山田さんご一家はお母さんの初美さん(35)と長女のお美さん(11)がねずみ年の家族です。

有美さんは旧大久保小学校六年生、四年生から続けてきたバスケットボールではコルネットを担当し、関西マリーンパンドフェスティバルには「中学に行ったら吹奏楽でパーカッション」を誓っています。

初美さんは生時代はやつてたバレーボール選手ですが、数年前復帰。地域のバレーボールクラブ「西大久保クワラコ」でセッターとして活躍しています。忙し合練習を繰り返してお友達とおい物を食べに行きのが大好きで、と笑います。

理科が好きだという康平くん(9)は「西大久保小学校三年生。『虫や動物が好き。ハムスターの『ハムちゃん』の世話もしてるよ』と話。また、釣りも好きで、先日は家族で須磨の海浜公園まで足を延ばしたとか。『子供と同じ趣味を持つ』というのはうれしいもの」とお父さんの貞一さん(40)も顔をほころばせました。

▲左から貞二さん、康平くん、有美さん、初美さん

今年の抱負を尋ねると、「やはり健康が何よりです。それと年一回の家族旅行は海外旅行を奮発したいのだ」とのこと。今年まだい年でありますように。

圖書館

あんな
こんな **本**

ねずみの本とえとの本

「ねずみのしっばい」 小沢正作／井

上洋介絵／アリス館

北風のびゅうびゅう
う吹く寒い日にねず
みはおでんを作って
食べようと考えた。
あったかいおでんに
おもしろいからい
からしを付けて。腹を立てているものに
かき混ぜてもらおうと、とてもでもから
いからしてききとだれかに聞いたのを
思い出して、おこりんぼうの猫のところ
に行くが……。何ともおかしく楽しい気分
になってくる本です。

A colorful illustration of a cat and a mouse. The cat is on the left, looking towards the mouse. The mouse is on the right, looking back at the cat. They are both wearing small hats. The background is a simple, stylized landscape with a blue sky and a green ground. The illustration is framed by a decorative border.

「ほく字がかけるよ」 - 教室ねずみジョ
ンのお話 - ランデル作/ヤング絵/かわい
ともこ訳/偕成社

ジョンは小学校に
住んでいるちっ
ちゃん茶色のねず
み。すがたも形も、
どこにでもいる、
ごくありふれたね
ずみでした。

ところがある日、
ジョンは気付きました。あれっ、生徒た
ちがみんなでほくの名前をよんでいるじゃ
ないか。びっくりしたよ。その日からジョ
ンは「字」というものを習いはじめたの
でした…。ねずみのジョンと子供たちの
心温まるお話です。



「ネズミの超能力」 今泉忠明著／講談社
不潔だという理由で嫌われがちなネズミ。でもそれは世界中にいる約2000種のネズミのうちのわずか3種の家ネズミの

ことなんです。ネズミといっても、美しいものからみにくいもの、そして非常に珍しいものなど千差万別。大昔から人間と共存（共存？）してきたネズミたちは、はたして悪者なのか？ネズミの生きるための知恵の秘密を探り、意外な一面を紹介しています。

「干支（えと）を折る」 小林一夫監
修／ブティック社

今年は干支の始まりの子年。干支は私たちに大変なじみ深いもので、特にお正月には縁起が良いものとして喜ばれています。

この本では、同じ



ように日本人に非常になじみ深い折り紙が、干支と出会いました。折り紙で折る干支の数々。美しい作品を折り方の図付きで写真で紹介しています。干支を自分の手で折り、飾ってみませんか。

「昔のねずみと今のねずみ」 矢部辰

男爵／どうぶつ社
近ごろのねずみ
はあまり家に入ら
なくなり、被害は
少なくなったよう
に思われます。し
かしとんでもあり
ません。大企業の
コンピューター室に忍び込み、コードな
どをかじれば人間社会により大きな混乱
を引き起こすことができる能力をいまも
彼らは持っています。

昔も今も変わることのない身近なほ乳類であるねずみについて詳しく書かれた本です。

